

## 令和3年度

## 定期作況報告

〈令和3年10月20日現在〉

地方独立行政法人北海道立総合研究機構  
農業研究本部 道南農業試験場

### I 気象

9月下旬：平年と比較して平均気温は1.7℃、最高気温は1.2℃、最低気温は2.3℃それぞれ高かった。  
降水量は平年の174%、日照時間は同68%だった。

10月上旬：平年と比較して平均気温は1.7℃、最高気温は2.6℃、最低気温は1.2℃それぞれ高かった。  
降水量は平年の104%、日照時間は同103%だった。

10月中旬：平年と比較して平均気温、最高気温は平年並、最低気温は0.9℃高かった。降水量は平年の71%、日照時間は同66%だった。

以上、平年と比較して平均気温は1.3℃、最高気温は1.3℃、最低気温は1.4℃それぞれ高かった。降水量は平年の114%、日照時間は同78%だった。

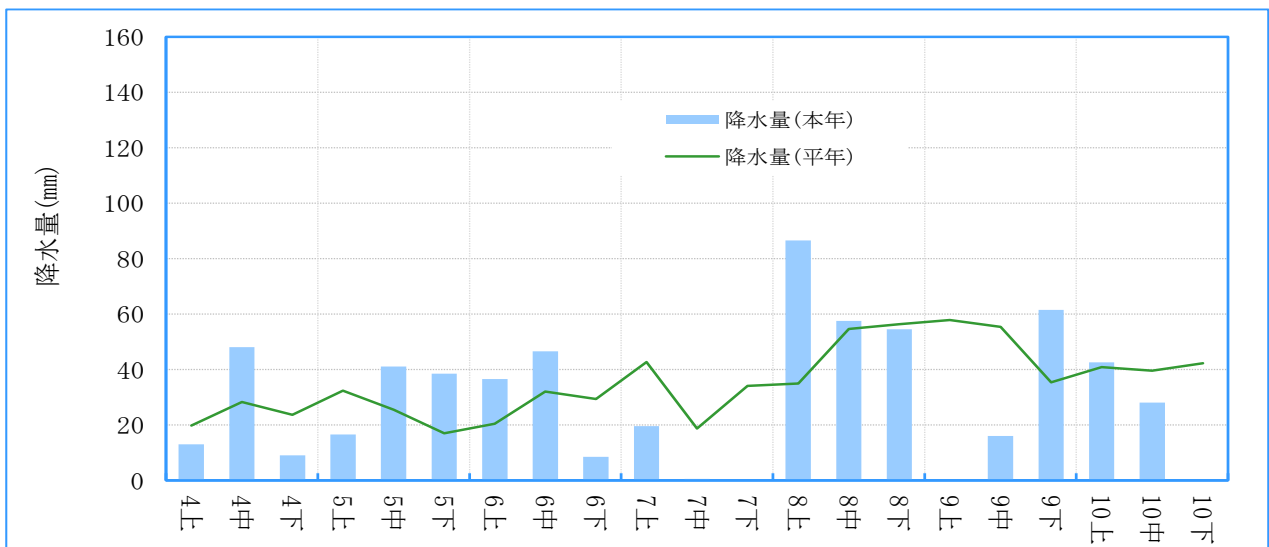
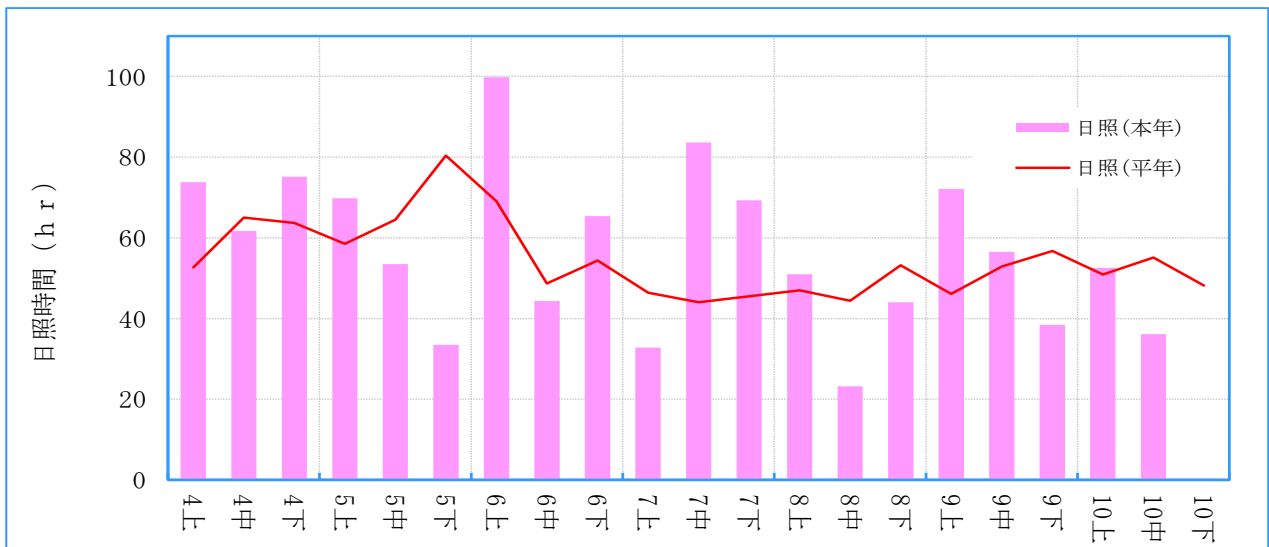
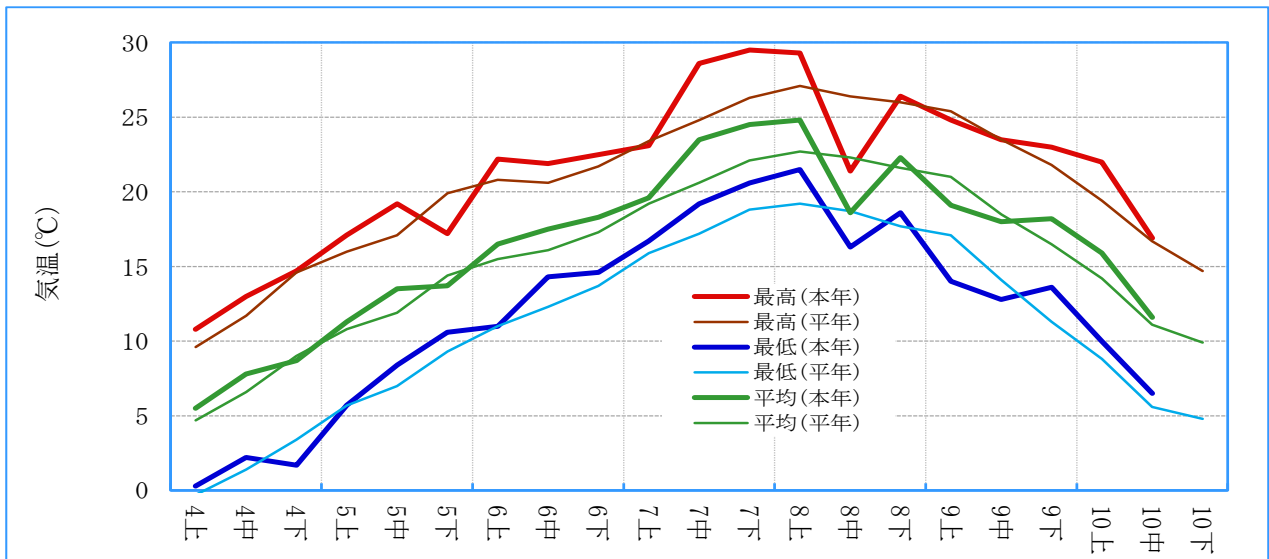
表1 気象表

調査項目	9月下旬				10月上旬				10月中旬				平均または合計			
	本年	平年	比較	(%)	本年	平年	比較	(%)	本年	平年	比較	(%)	本年	平年	比較	(%)
平均気温(℃)	18.2	16.5	1.7		15.9	14.2	1.7		11.6	11.1	0.5		15.2	13.9	1.3	
最高気温(℃)	23.0	21.8	1.2		22.0	19.4	2.6		16.9	16.7	0.2		20.6	19.3	1.3	
最低気温(℃)	13.6	11.3	2.3		10.0	8.8	1.2		6.5	5.6	0.9		10.0	8.6	1.4	
降水量 (mm)	61.5	35.3	26.2	174	42.5	40.8	1.7	104	28.0	39.5	▲11.5	71	132.0	115.6	16.4	114
日照時間(hr)	38.4	56.7	▲18.3	68	52.5	50.9	1.6	103	36.1	55.1	▲19.0	66	127.0	162.7	▲35.7	78

注1) 観測値は北斗市のアメダスデータを使用、平年値は前10か年による。

注2) 表中▲印は「低」または「少」を示す。

気温、日照時間及び降水量の平年との比較(令和3年、北斗市)



## II 作況（水稻）

10月20日：平年並

事 由：「ふっくりんこ」の精玄米千粒重は平年並で、 $m^2$ 当稔実粒数は平年より多く、登熟歩合は平年並であったが、屑米歩合が平年より高いことから精玄米重は58.4kg/a、平年の102%であった。「ななつぼし」の精玄米千粒重は平年並であり、 $m^2$ 当稔実粒数は平年より多かったが、登熟歩合は平年より8.4ポイント低く、屑米歩合は平年より高いことから精玄米重は58.9kg/a、平年の99%であった。

以上のことから、現在の作況は「平年並」である。

9月20日：やや良

事 由：生育は順調であったが、倒伏と8月下旬以降の気温が平年並から低温傾向に推移したことから、登熟は緩慢となった。その結果、成熟期は平年と比較して「ななつぼし」では2日早くなったものの、「ふっくりんこ」で3日遅くなった。収量構成要素が多かったことも影響し、登熟日数は4～8日長かった。平年と比較して、成熟期の稈長、穂長は両品種ともに長かった。「ふっくりんこ」の穂数は平年並であり、一穂粒数が平年より多いことから $m^2$ 当粒数は平年の117%と多かった。稔実歩合は平年より1.8ポイント高く、 $m^2$ 当稔実粒数は平年の120%と多かった。「ななつぼし」の穂数は少なかったが、一穂粒数が平年より多いことから、 $m^2$ 当粒数は111%と多かった。稔実歩合は2.2ポイント高く、 $m^2$ 当稔実粒数は平年の114%と多かった。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

8月20日：やや良

事 由：出穂期は平年より5～6日早かった。止葉葉数および草丈は平年を上回った。茎数は「ふっくりんこ」で平年並、「ななつぼし」で平年の95%とやや下回っている。7月下旬～8月上旬が高温多照に経過したため、登熟は進んでいる。観察から、一穂粒数は平年より多く、不稔の発生は平年より少ないと推察される。なお、8月10日の風雨により「ななつぼし」を中心に倒伏が発生した。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

7月20日：やや良

事 由：6月下旬から7月上旬の気温は平年並から高温に推移したことから、幼穂形成期は1～2日早く、止葉期も平年より2～3日早かった。7月中旬は極めて高温多照に推移し、生育が前進したことから、茎数は平年をやや下回っているが、葉数および草丈は平年を上回っている。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

6月20日：やや良

事 由：5月下旬は低温少照に推移し、苗の活着および生育はやや劣った。6月上旬～中旬は高温多照傾向に推移し、生育は順調であった。葉数および草丈は平年を上回り、茎数は平年並から上回っている。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

5月20日：平年並

事由：播種は平年より1日遅い4月22日に行った。出芽は順調で出芽までの日数は平年より1日短く、出芽期は4月27日であった。育苗期間中、5月上旬は、気温が平年よりやや高く、やや多照に推移し、5月中旬はやや少照であったものの、高温に推移したことから、苗の生育は概ね順調であった。移植は平年並の5月20日に行った。移植時の苗の形質において、草丈、葉数、茎数、地上部乾物重はいずれも平年並であり、苗の充実度を表す地上部乾物重/草丈の値も平年並であった。

以上のことから、現在の作況は「平年並」である。

表2 水稻の生育

項目	品種名 /年次	ふっくりんこ			ななつぼし		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
生育期節	播種期 (月日)	4.22	4.21	1	4.22	4.21	1
	出芽期 (月日)	4.27	4.27	0	4.27	4.27	0
	移植期 (月日)	5.20	5.20	0	5.20	5.20	0
	幼穂形成期 (月日)	6.30	7.02	▲ 2	6.27	6.28	▲ 1
	止葉期 (月日)	7.16	7.19	▲ 3	7.14	7.16	▲ 2
	出穂期 (月日)	7.23	7.28	▲ 5	7.21	7.27	▲ 6
	成熟期 (月日)	9.18	9.15	3	9.10	9.12	▲ 2
	穂揃日数 (日)	6	6	0	6	6	0
	登熟日数 (日)	57	49	8	51	47	4
	生育日数 (日)	149	147	2	141	144	▲ 3
移植時	草丈 (cm)	13.8	13.4	0.4	13.7	13.6	0.1
	葉数 (枚)	3.3	3.4	▲ 0.1	3.6	3.4	0.2
	茎数 (本/個体)	1.20	1.17	0.03	1.07	1.16	▲ 0.09
	地上部乾物重 (g/100本)	2.56	2.70	▲ 0.14	2.52	2.75	▲ 0.23
	地上部乾物重/草丈	0.19	0.20	▲ 0.01	0.18	0.20	▲ 0.02
本田生育	葉数 (枚) 6月20日	8.2	7.8	0.4	8.3	7.8	0.5
	7月20日	11.1	10.6	0.5	11.0	10.6	0.4
	止葉葉数	11.1	10.8	0.3	11.0	10.6	0.4
	茎数 (本/m <sup>2</sup> ) 6月20日	591	521	70	480	475	5
	7月20日	837	886	▲ 49	734	791	▲ 57
	8月20日	730	727	3	653	691	▲ 38
	草丈 (cm) 6月20日	34.8	32.4	2.4	36.9	33.5	3.4
	7月20日	85.4	69.6	15.8	89.6	72.0	17.6
	8月20日	96.7	90.5	6.2	98.5	91.1	7.4
成熟期	稈長 (cm)	82.3	75.1	7.2	81.9	74.0	7.9
	穂長 (cm)	17.0	15.9	1.1	17.2	16.0	1.2
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	720	712	8	640	678	▲ 38
収量構成要素	一穂粒数 (粒)	52.3	45.1	7.2	58.1	49.2	8.9
	m <sup>2</sup> 当粒数 (×1000)	37.7	32.1	5.6	37.2	33.4	3.8
	稈実歩合 (%)	95.0	93.2	1.8	95.6	93.4	2.2
	m <sup>2</sup> 当稈実粒数 (×1000)	35.8	29.9	5.9	35.5	31.2	4.4
	同上平年比	120	100	20	114	100	14
	登熟歩合 (%)	81.4	79.8	1.6	75.0	83.4	▲ 8.4
	籾摺歩合 (%)	71.0	76.5	▲ 5.5	73.2	79.4	▲ 6.2
	屑米歩合 (%)	12.1	7.0	5.1	9.8	4.1	5.7
	精玄米千粒重 (g)	22.6	22.6	0.0	21.5	21.5	0.0
収量	わら重 (kg/a)	70.3	68.1	2.2	69.1	69.5	▲ 0.4
	精粒重 (kg/a)	82.3	74.8	7.5	80.5	74.9	5.6
	精玄米重 (kg/a)	58.4	57.2	1.2	58.9	59.5	▲ 0.6
	収量平年比 (%)	102	100	—	99	100	—
	玄米検査等級 (等)		2上			1下	

注1) 平年値は、前7か年中、平成29年(最豊年)、同30年(最凶年)を除く5か年の平均値を用いた。

注2) 苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/m<sup>2</sup> (33cm×12cm)、1株3本植え。

注3) 本田にはN、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>、K<sub>2</sub>O成分をそれぞれ8、9.7、6.9(kg/10a)施用した。

注4) 篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5) 登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6) 表中▲印は「減」または「早」を示す。